

令和6年度

事業計画書

建学の精神

建学の精神

人間性に支えられた高度な工業技術者を広く学術の研鑽を通じて育成する

基本理念

人を育て技術を拓く（ひらく）

教育目標

豊かな人間性の錬成とすぐれた工業技術者の育成

教育方針

- 学生の個性を伸ばすきめ細かな教育の実現
- 産業界を支える自立した実務型技術者の育成
- 国際社会で、職場で尊敬され、頼りにされる技術者の育成
（基本教科の確実な修得・コンピュータに強い技術者の育成・個性化への対応）

使命・目的

工業に関する専門の学術と一般の学芸とを教授研究し、かつ、人格の形成と陶冶を図り、もって文化の向上に寄与する

I 教育分野

1. 社会が求める人財育成プログラムの推進

1-1. 新学科の創設準備

本学の情報系教育資源を活用し、併せて財務・経理、人事、生産・販売管理等のマネジメント系科目を教育する文理融合型の「情報マネジメント学科」の創設に向けて、補助金等を活用しながら、高等学校や民間企業などの人財ニーズ調査を実施し、設置申請に向けた準備を行います。

1-2. 大学院教育分野の再編と院生の学外活動支援

社会情勢の変化への対応、大学院生の主体的な学びの促進を目的に、教育分野の再編と学外活動支援強化に着手します。社会が求めるキーワードに本学の長を融合することにより育成が可能となる人財像を明確にし、それに応えるカリキュラムを取り入れた教育分野に再編します。

1-3. 数理・データサイエンス・AI教育によるデジタル人財の育成

「西日本工業大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」のリテラシーレベルと応用基礎レベルの教育を進め、自己点検・改善検討を実施します。また、工学部の教育プログラムに対して応用基礎レベルの認定申請を行います。併せて、時代に合った教育効果の高い数理・情報の授業を全学で実施するためのカリキュラムを検討します。

1-4. 創造力と実践力を向上させる副専攻プログラムの開発・運用

主専攻の学びとは異なる専門分野について学修する機会を設け、時代の変化に応じた多様な課題を解決する幅広い視野と、創造力・実践力を向上させるための副専攻プログラムの開発を行います。まず主専攻の学び（履修モデル）を検証するとともに、社会のニーズおよび本学シーズの精査と副専攻プログラムのあり方を検討します。

1-5. 人財育成目標に対応する3ポリシーの更新

大学教育の質の向上と人財育成目標達成のため、各種教育データのアセスメント結果をもとに3ポリシーの整合性を図り、見直しを行います。また、IR活動により入学から卒業に至るデータを集約・分析し、データに基づく客観的な分析と評価を行い、より具体的な教育改善策の提案を行います。

2. DXによる自律的な学修の推進

2-1. 学修成果の可視化システムの構築

学生の学修成果を可視化するシステムを導入します。これにより、学生自らが理解度や成長過程および目標達成度を定量的に確認でき、ガイダンス教員との対話を通して、将来の夢・目標に向けた自律的な学修につなげることを目指します。また、可視化された教育成果をもとにディプロマポリシーとカリキュラムの整合性を検証・改善します。

2-2. DX・AI活用教育の開発と展開

DX教育設備の導入を進め、主として実験・実習科目において、それらの設備を活用してデータマインドと課題解決能力を持った実務型技術者教育を行います。また、積極的に生成AIを活用することで、理論的知識や研究力はもちろんのこと、主体性や自己解決能力など学生の総合的な能力向上を図る生成AI活用教育を複数科目で試行します。教育情報を全学で共有するとともに、各授業の実施状況と学生アンケート結果から生成AI教育の効果を検証します。

2-3. DEIに定める学生サポート体制の充実と就職支援

DEI（多様性・公正性・包括性）に定めるため、DEI支援部会を立ち上げ、問題点、改善点を検討します。課外活動支援では、特別支援サークル部会を立ち上げ、学生サポート体制の強化を図ります。就職指導部会は、キャリア支援部会に改め、インターンシップの更なる推進を含め、大学院進学を含む新たな支援方策を企画・展開し、学生の自主的な活動を推進します。また、個人面談および三者面談を重視した組織的取組みにより、課題を抱える学生を早期に把握し休退学防止に努めます。

II 研究・地域貢献分野

1. 地域・産学連携センターを核とした研究推進

本学のブランド力を向上させる新たな産学連携・地域貢献のしくみを戦略的提携によって構築し、地域・産学連携センターを核とした研究推進の活性化および外部資金の獲得を図ります。さらに、本学大学院と連携して学術・実践研究の高度化と課題解決型研究活動を推進します。具体的には、①研究所を中心とした尖った研究シーズの育成と外部資金の獲得、②大学院と連携した課題解決型研究活動の推進、③戦略的提携による研究マネジメント機能を強化します。

2. DX・防災・デザイン等による地域・社会課題の解決と地元企業・自治体との連携

本学の強みであるDX・防災・デザイン等の研究シーズを駆使し、地元企業・自治体と連携して、自然災害、労働力不足等、地域の抱える課題の解決を図り、地域に必要とされる大学を目指します。具体的には、研究会・公開講座等の開催による研究成果の地域への発信、さらにチャレンジ授業等の地域連携型教育を通して、地域社会に貢献できる実務型技術者の人財育成に取り組みます。

Ⅲ 管理・運営分野

1. 安定した学生定員の確保のための学生募集戦略と入試制度改革

学生募集体制の再構築を図り、地元エリアを中心とした学生募集を強化し、安定した学生定員の確保に努めます。また、入試制度や奨学金制度の見直しを図るとともに、本学の教育研究資源を活用することにより、本学のブランド力を強化し、目的意識の高い学生や多様な学生の受け入れを推進します。

2. 内部統制システムの整備

組織ガバナンスの強化を図るため、本学の内部統制システムの現状把握を行い、業務の適正を確保するために取り組むべき課題を整理します。また、内部統制システムの基本方針を策定するとともに、必要な規程の策定及び見直しを行い、周知徹底を図ります。

3. 安全衛生および危機管理体制の充実

学内で対応した危機事象を踏まえた安全衛生および危機管理体制の見直しを行い、大規模な自然災害、事件、事故などの不測の事態に備えます。また、危機管理マニュアルを機能させるため、教職員に対する研修や危機を想定した訓練等を実施します。

4. 第4期認証評価の受審に向けた情報収集の実施

2028年度の大学機関別認証評価の受審に向けて、評価員セミナーやその他の研修を通じて、第4期認証評価に係る内部質保証機能の改善のポイントや評価基準の留意点などについて情報収集を行い、自己点検・評価活動を推進します。また、関係教職員を評価員として派遣し、日本高等教育評価機構の認証評価活動に貢献します。

5. 基盤整備

- (1) 学修成果の可視化システム導入
- (2) おばせキャンパスD棟(研究棟)改修
- (3) おばせキャンパスR棟(有隣館：サークル等)空調設備更新
- (4) おばせキャンパス引込高圧ケーブル更新
- (5) 小倉キャンパス本館AV機器更新

以上